

第2回 豊明市文化財保護委員会（臨時会）会議録

日 時：令和元年6月24日（月）午前10時00分から

場 所：豊明市役所東館3階 教育委員会室

出席者：浅井委員、三浦委員、相場委員、佐野委員、鈴木委員、近藤委員、永井委員

事務局：伏屋教育長、小串教育部長、深草生涯学習課長、神谷生涯学習課長補佐、

岸田主査、神谷社会教育指導員

傍聴人：なし

1 委員長あいさつ

2 協議事項

(1) 民具資料の整理について

- ・事務局より民具の取扱いについて説明。唐竹小学校、双峰小学校の統廃合に伴う民具資料の整理について現時点では総数4分の1を止むを得ず減らす方向性で考えている。その中には大きな民具も数多く含まれており、今年度は二村山収蔵庫から他の収蔵施設への移動のみとする。
- ・いつ、どこで使われたものかの情報があれば民具としての価値があるので残しておくべきである。また、特定の人が使用したものについては説明をすることができる。
- ・他の部署にも収蔵スペースがないことを働きかけるべきである。
- ・鉄製、木製のものについては腐敗防除等定期的な手入れを行う必要がある。
- ・耐火用の保管庫を造り、市民の方などが所有しているものを市で保管することはできないか。
→予算が絡むので継続的な協議をしていく。（事務局）
- ・豊明に根差したものは残すとよい。
- ・祭礼や儀式等に使われていたものは聞き取りを行い展示説明するとよい。また子供がどのような役割を果たしてきたかについても示しておくとうい
- ・今後、民具の寄贈にあたっては検討委員会のメンバーを決めて年に数回開催していくべきと考える。
→寄贈されるに当たって話し合いが出来る場をつくっていききたい。（事務局）
また、豊明市の中で使われていたものを選ぶ基準をつくっていききたい。
◆今年度は収蔵庫への移動のみに留まるが、廃棄についての了承を得た。

3 その他

○市指定文化財における保存活用計画（案）について

- ・事務局より説明。これまで市指定として取り上げてきた4件についてはいずれも①豊明市としての独自性をもち内外に発信できるもの②将来的に展示資料室が出来た際にPRできる展示物（有形文化財）や史跡地であること③市が所有し、既存の文化財とも関連性をもつものである。常設展示や企画展示、広報活動（HP、印刷物作成）、看板作成、市民講座等（文化財めぐり、市民ウォークラリー）で活用していくことを考えている。
- ・両村塾については、子供用のパンフレットをつくるとよい。伊藤両村の人物像については学校教育の中にもっと深く浸透させていく必要がある。低学年のうちに芽生えさせるシステムがあると豊明の教育が良くなる。現職の教職員で大変なところを文化財保護委員で補っていく必要がある。
→システムが変わっていく中で、どう子供に伝えていくか学校教育課に伝えていききたい。（事務局）

○柿ノ木地区の試掘調査について

- ・事務局説明。工業団地整備のため2回にわたり試掘調査を実施した。工事立ち合いについては県職員の派遣を依頼した。

○一之御前社井戸工事について

- ・近藤委員説明。7月8日の午前に掘削工事を行う。かつて水が湧き出ていた社の中に穴を掘り、ポンプで水を汲み上げる。

○ナガバノイシモチソウ策定部会・審議会の日程について

- ・事務局説明。保全活用計画書（案）を作成し、策定部会を7月8日に行う。これを踏まえて審議会（現地調査、協議）を7月12日に開催する。
学識経験者として愛知教育大学 渡邊教授が同席、オブザーバーとして文化庁調査官、県職員が出席する。
なお、午後より試掘調査（沓掛村砦遺跡）を行う。

次回文化財保護委員会 令和元年7月12日（金）10時より